

「阿詩瑪」をめぐる伝承の生成と継承

【サマリー】

百田弥栄子

「阿詩瑪」は雲南省随一の観光地・石林地区に暮らす彝族（撒尼人）が詠い継ぐ叙事詩。

阿詩瑪は地主の度重なる脅しに屈せず、石牢から逃げる途中、地主が川の堰を切ったために山津波に吞まれて石林の大岩に変じたというヒロイン。阿詩瑪の凜とした生き方は村人の暮らしの規範となり、婚礼や葬儀、祭祀、労働等の場で旋律（節）を変えて古撒尼語で詠われる。この訳本や歌劇等は、少数民族の文芸の豊かさを世に知らしめる嚆矢となった。